



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年11月14日 第1093号「週刊五十嵐レポート」

円安は変化の起爆剤

11月11日付日経新聞、「エコノミスト360° 視点」のコラムから。近ごろ多くの日本人が、「いつになったら外国人投資家は日本株を買ってくれるのか」と問いかけてくる。間違った問いだ。本来は「日本の投資家はいつ自国市場を買い始めるのか」と問うべきである。日本は最大の債権国であり、ジャパンマネーが投資するところ、グローバルマネーもついてくる。

この1年間の円安で日本は安くなった。ビッグマックは東京で410円(約2.7ドル)、米国では5ドル前後、現在の為替レートだと価値がほぼ2倍。日本人の平均年間給与も440万円(約3万ドル)まで下がった。OECDによると米国の平均賃金は7万5000ドルで日本の賃金は米国の半分以下。

大手企業3社が日本への投資計画を発表。日本が貧しいのではなく安いのであり、日本の労働者が過小評価されていると見抜いている。国内の投資家が日本企業の価値を信じていないから企業の半分は簿価を下回っている。

円安は変化の起爆剤になる可能性がある。

コンピュータやロボットはカネで買える。従業員にやる気を起こさせ、最高のパフォーマンスを発揮させられるのは真のリーダーだけ。チームがより良い仕事をし、より多くの収入を得るために刺激を与えるのが経営者の仕事。経営者が従業員のより良い未来への道筋を示すほど投資家から注目される。

10年以上前、ベトナムをはじめ東南アジア視察をしていて、アジアで安く作って日本に売るビジネスモデルは、日本で生きる中小企業の参考にならないと思っていた。日本のモノ・サービス・ノウハウを海外展開できないか模索していた。イタリア視察では、日本や中国からの大量生産の圧力から逃れるために高付加価値、希少性で生きる企業を見た。およそ売上の8割は海外によるものだった(自国イタリアは2割)。日本は少子化の影響で、外国人労働者の力を借りなければ回らない。中小企業でも外国人を経営幹部、もしくは後継者に育成するところも出てきた。海外に進出するのではなく、海外を呼び込み、世界に打って出る。この円安が分岐点になるかもしれない。

ちょっと
気をつける出来事

11月8日付日経新聞夕刊、「就活のリアル」のコラム。リクルート就職みらい研究所が2022年に卒業予定者の大学4年生を対象に今後のキャリア観や望む働い方の調査をした。

「できれば新卒で入社した企業・組織団体で、ずっと勤めたい」が58.6%と6割近くで最も多く、「キャリアを優先したりなど、転職もいとわない」が29.5%と3割。ずっと勤めたいが2に対し転職は1。

望む働く期間は「できる限り長く働きたい」が68.7%。「働くが早期リタイアしたい」が8.6%。何歳まで働きたいか、「60~69歳」が42.7%と最も高い。100年時代の影響もあり、長く働く意識が高い。

これまでの「安定・安心・安全」な人生設計は、1社に忠誠をすることで担保されると思われてきた。しかし、これからはそうとは限らない。

組織に貢献することで自身の成長が得られ、キャリアの形成につながる。また、プライベートとバランスが取れた柔軟な働き方ができるか。

個人と組織の良い関係は「安定・安心・安全」を実現するものは何か。経営者は問い続けていくことになる。



一口メモ
知識

泰平を支える三徳

荒(こう)を包(か)ね、河をかちわたるを用い、遐(とお)きを遣(わす)れず。

「荒」はすさまじい亡骸(なきがら)、荒れはてた汚いもの。そんな荒れた人心など包み難いものまで抱擁する度量を「仁」という。

そして、危険な川を徒歩で渡るほどの勇氣と決断力を「勇」という。

また「遐(とお)きを遣(わす)れず」は、遠くまで思いを置くこと。つまり、五十年百年先の将来を深く思う。これが「知」である。

泰平の世の中が実現するためには、知・仁・勇の三徳が必要とされるという。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

